

COLORFUL

【カラフル】

特集 【ジェンダー意識は変わった?】

～過去の特集を振り返ってみました～

No.30 【仕事と子育て
両立できたらいいね!】

No.37 【改正育児・介護休業法
イクメンプロジェクト】

No.43 【男女共同参画って?
私たち一人ひとりができる
こと地域でできること】

No.49
【わたしが選んだ「道」
～あなたはどんな道を
歩いていきますか?～】

おかげさまで情報紙も
第50号!!
変遷を辿ってみました。



【男女共同参画情報紙の歩み】

時代と共に、女性の活躍という視点から多様性へと男女共同参画も広がりを見せていますが、過去のテーマを振り返ると、今も課題となっていることが多いように思えます。

※名称:「華」も「COLORFUL」(No.46から変更)も応募作品の中から選ばれました。

このイラストを基に「将来になりたい自分」や「大切な人」をテーマに描いていただきました。5歳～80歳のかたの作品です。同じイラストなのに、みんな別人に見えます。いろいろな個性が光っていますね。

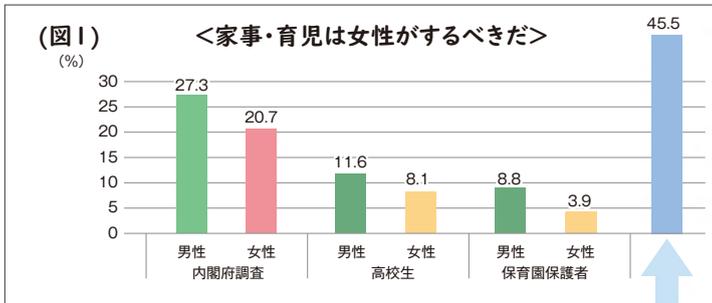
【ジェンダー意識は変わった？】

時代は、昭和→平成→令和 と移り変わり、人々の生活も様々に変化しています。

「令和時代に活躍のかた」という視点で、保育園・保育所を利用中の保護者のかた(表中は「保育園保護者」と表記)と市内の高校3校の生徒さんへアンケートを行いました。

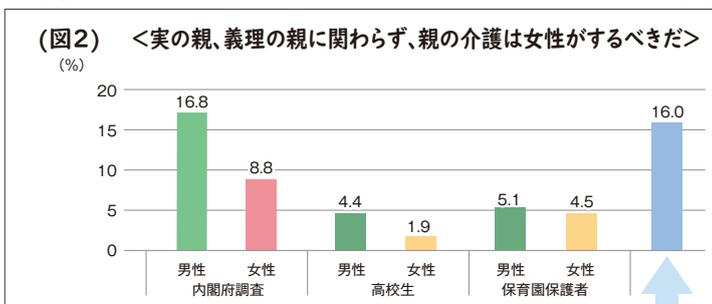
設問の内容は、内閣府が行った「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」に基づいています。内閣府の調査結果と比較してみました。

<育児>



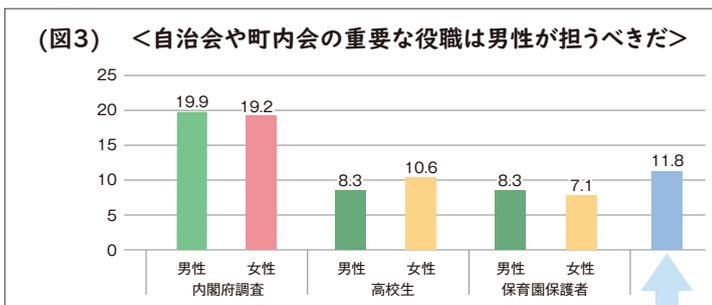
☆2009年時は、「子どもは母親が育てるのが一番」という設問に対して、「思う」と回答したかたが45.5%でした。「育児は母親の役割」から、「子どもは夫婦で育てる」意識に変化してきていると思われます。

<介護>



☆2009年時は、「老後の世話は女の子」という設問に対し、「思う」と回答したかたが16%でした。介護の担い手は、いわゆる「嫁(義理の娘)」や女性から、配偶者や直系家族中心に変化しているようです。

<地域>



☆2009年時は、「自治会役員は男性が務めるほうが信頼感がある」と回答したかたが11.8%でした。今回の結果では、すべて11%未満となり、内閣府の調査と比較しても低いスコアになっています。地域でも女性の活躍が期待できそうです。

【「アンコンシャス・バイアス:無意識の偏見」とは?】

自分自身では気づいていない「もの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいい、自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため「無意識の偏見」と呼ばれます。(内閣府HP)

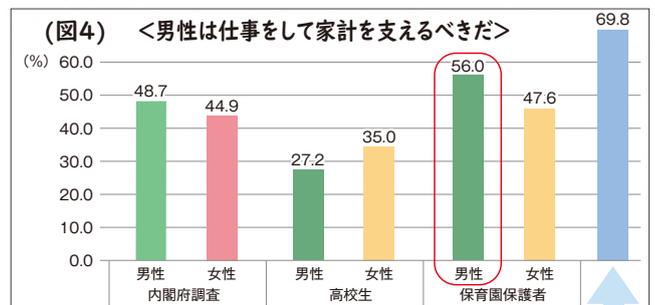
☆2009年との比較

情報紙No.36では、「男女共同参画フェスタ」へ参加されたかたを対象にアンケートを行いました。ただし、回答の選択肢は「思う・思わない・どちらでもない」の3択でした。

○今回のアンケートについて

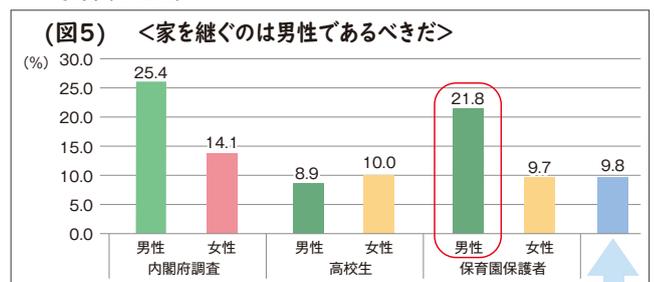
選択肢は「そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・思わない」の4択で、今回の集計は、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答されたかたの割合です。

<家計>



☆2009年時は、「父親は一家の大黒柱として家庭を支える」という設問に対し、「思う」と答えた方が69.8%でした。今回の結果では、保育園保護者の男性以外は、肯定的な回答が50%を下回っています。共働き世帯が過半数を占めている現在では、「大黒柱」という意識が薄らいでいるのかもかもしれません。一方で、保育園保護者の男性では、肯定的な回答が50%を超えており、内閣府の調査よりも高いスコアとなっています。

<家督(かどく)>



☆2009年時は、「跡取りには男の子」という設問に対し、「思う」と回答したかたが9.8%でした。今回の結果では、保育園保護者の男性以外は、当時の結果と大差がないようです。

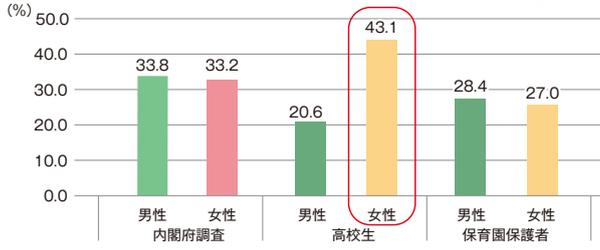
<家計><家督>の分野では、保育園保護者の男性の数値が高くなっています。家を継いだり支えたりするのは「男性・父親」という意識が強いようです。

【性別役割分担意識】

「性別役割分担意識」とは、性別を理由にして、役割を固定的に分ける考え方のことです。例えば、「男は仕事・女は家庭」や「男性は主要な業務・女性は補助的業務」などのステレオタイプを持つことが性別役割分担意識の表れです。

このような考え方は、個人の能力や希望とは関係なく、性別によって役割を決めることとなります。性別役割分担意識は、男女の平等や多様性を阻害する要因となることがあります。

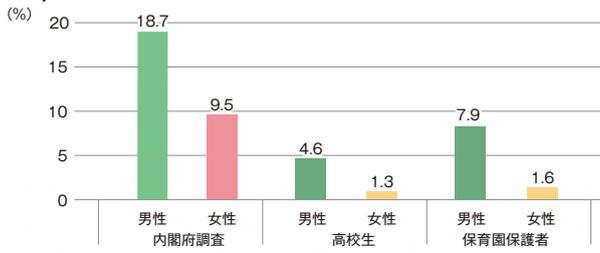
(図6) <育児期間中の女性は重要な仕事を担当するべきでない>



○(図1)では、家事・育児に関して、「女性がするべきだ」と回答したかたは約1割程度でしたが、「育児期間中の女性は重要な仕事をするべきでない」(図6)という設問に対しては、2割以上のかたが肯定的な回答をしています。育児中の女性は育児を優先するべきという意識が感じられます。

中でも高校生の女性の4割以上が肯定的な回答をしています。

(図8) <男性なら休日出勤をするのは当たり前だ>

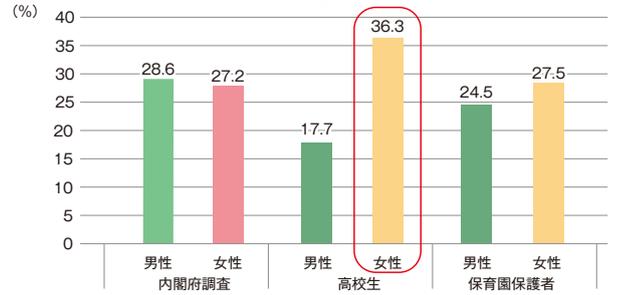


これらの状況から、「女性は育児優先」「男性は仕事優先」という性別役割分担意識が根強く残っているように感じられます。

しかし、家事・育児は両親共に行うもの、男性の残業や休日出勤には否定的、育休を男性が取ることに肯定的など(図8, 9)、性別役割分担意識が薄まっている項目もあります。いろいろなところで意識が変化している最中と思われます。

○(図10)「女性に理系の進路(学校・職業)は向いていない」と回答したかたは3%未満です。大学生で学部における女子学生の割合は、理学は3割未満、工学は2割未満(令和5年版男女共同参画白書より)ですが、今後は理工系分野での女性の活躍が期待できそうです。

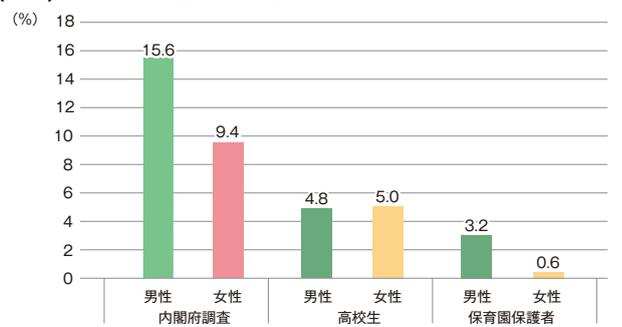
(図7) <女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い>



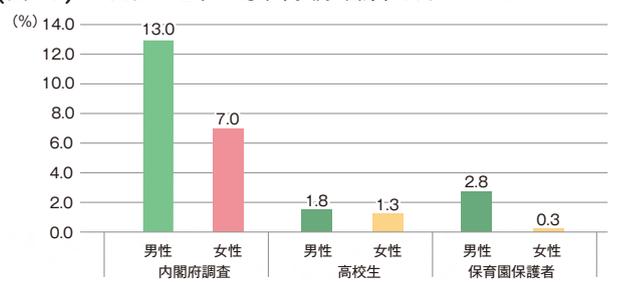
○「女性は結婚によって、経済的な安定を得る方が良い」(図7)という設問に対して、保育園保護者では2割以上のかたが肯定的な回答をしています。特に高校生女性では3割を超えています。

女性が経済的に男性を頼ることに肯定的ということが感じられ、女性の自立という視点では疑問が残るように思われます。

(図9) <男性は出産休暇/育児休業を取るべきではない>



(図10) <女性に理系の進路(学校・職業)は向いていない>

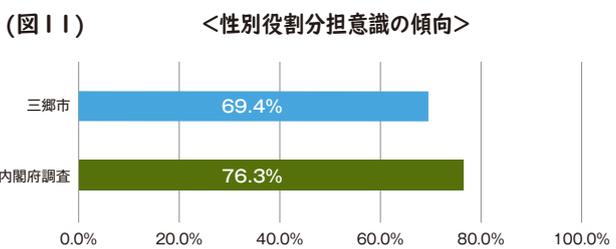


三郷市のアンケート調査は、高校生と保育園・保育所を利用中の保護者のかたが対象でしたが、全体として、性別役割分担意識は、内閣府調査と比較すると三郷市の方がスコアは低く、男女共同参画意識は向上してきていると思われます。(図11)

今後も、性別に関わらず、みんながお互いに理解・尊重し、個性と能力を發揮できるまちを目指して、男女共同参画を進めることが重要です。

【三郷市の状況】

○アンケート項目について、1つでも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合(性別役割分担意識の傾向の高さ)

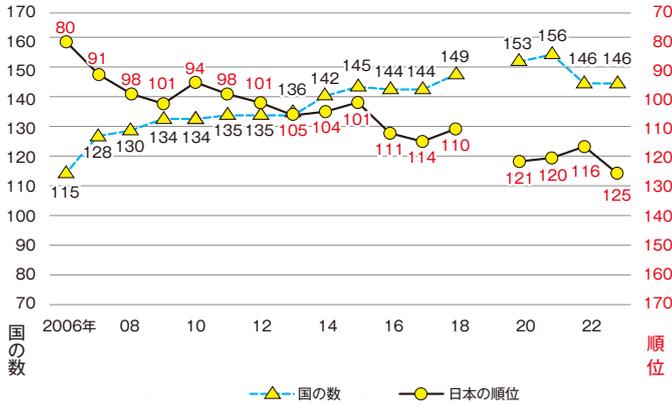


◎アンケートにご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございました。

ジェンダー平等に近づいているのでしょうか？

日本の状況は？

【GGI:国の数と日本の順位】



【GGI:ジェンダーギャップ指数とは】

世界経済フォーラムが2005年から毎年発表している各国の男女格差を示す指標で、「経済」「教育」「健康」「政治」の4分野で評価し、国ごとのジェンダー平等の達成度を指数にしています。

「0」が完全不平等、「1」が完全平等を示し、数値が小さいほどジェンダーギャップが大きいことを示しています。

*GGI:Gender Gap Index

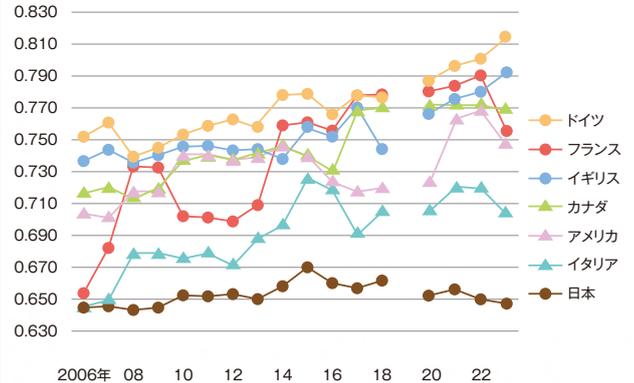
<過去最低の125位でした!!>

GGI・2023年版の日本は、国別ランキングで146か国中125位と過去最低の結果となりました。

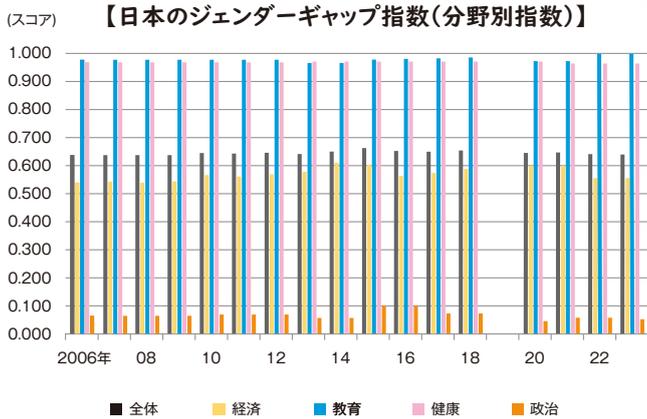
G7(主要先進国7か国)の中で最下位が続いています。

他国がスコアを上げる中、日本のスコアはほぼ横ばいのため、順位を落としています。

【G7各国のジェンダーギャップ指数の推移】



【日本のジェンダーギャップ指数(分野別指数)】



< 日本の現状 >

左のグラフを見ると、指数が低い分野は、「政治」と「経済」です。

☆分野ごとの指数の順位☆(146か国中の順位)

●政治分野:138位(前回139位)

他の分野に比べて特に低い順位となっています。衆議院議員の女性比率は1割程度で131位、閣僚の男女比は128位と他の先進国と比べてもかなり低い状況です。

●経済分野:123位(前回121位)

女性管理職比率が低く(133位)、労働参加率の男女比(81位)、同一労働での賃金格差(75位)など多くの課題があります。

○「教育(47位)」と「健康(59位)」は男女平等に比較的近づいています。

【注】グラフのデータについて、2019年のデータは、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行して集計されていないため空欄にしています。



【情報紙としての配布は今号で最終版となります。】

次号は、市ホームページに電子データでその時々の話題をタイムリーに掲載してまいります。今までご覧いただき、ありがとうございました。引き続きホームページをご覧くださいませよう。 ※市ホームページ(情報紙のコーナー)はこちらのQRコードから ➡

